

# 西表島西部の行事食とその変遷?? 女のはたらきを中心に

メール t@ankei.jp

安溪貴子 (山口大学非常勤講師)

西表島西部でのフィールドワーク開始から30年。行事の裏方を手伝い、記録を提供してきた。シチ祭が国指定の無形文化財となった時には、竹富町の依頼で記録づくりに取り組み、夫とともに「干立村の下男下女のアンケイさんです」と紹介されたこともある。

いまは廃村となった村(網取・崎山)の住民からの聞き取りと、現在もある村(祖納・干立)の生活の参与観察と聞き取りを主な方法として研究してきた。その中から食生活、とくに行事食を中心にその概要と最近の変化について報告する。

以下の3つの結論を踏まえて、島の暮らしの今後を展望したい。

- 1 復帰前の網取はほぼ自給的な食生活だった。
- 2 復帰後の祖納・干立では食料自給の多くが崩れた。
- 3 伝統的・自給的な食が例外的に祭(行事)に残っている。

引用文献

- ・安溪貴子・安溪遊地、2004「島を守って半世紀 西表島の神司・田盛雪さんのお話」『季刊・生命の島』68: 53-62、屋久島産業文化研究所
- ・川平永美述、安溪遊地・貴子編、1990『崎山節のふるさと 西表島の歌と昔語』ひるぎ社、那覇
- ・山田武男著、安溪遊地・貴子編、1986『わが故郷アントゥリ 西表島網取村の民俗と古謡』ひるぎ社
- ・山田雪子述、安溪貴子・遊地編、1992『西表島に生きる おばあちゃんの自然生活誌』ひるぎ社

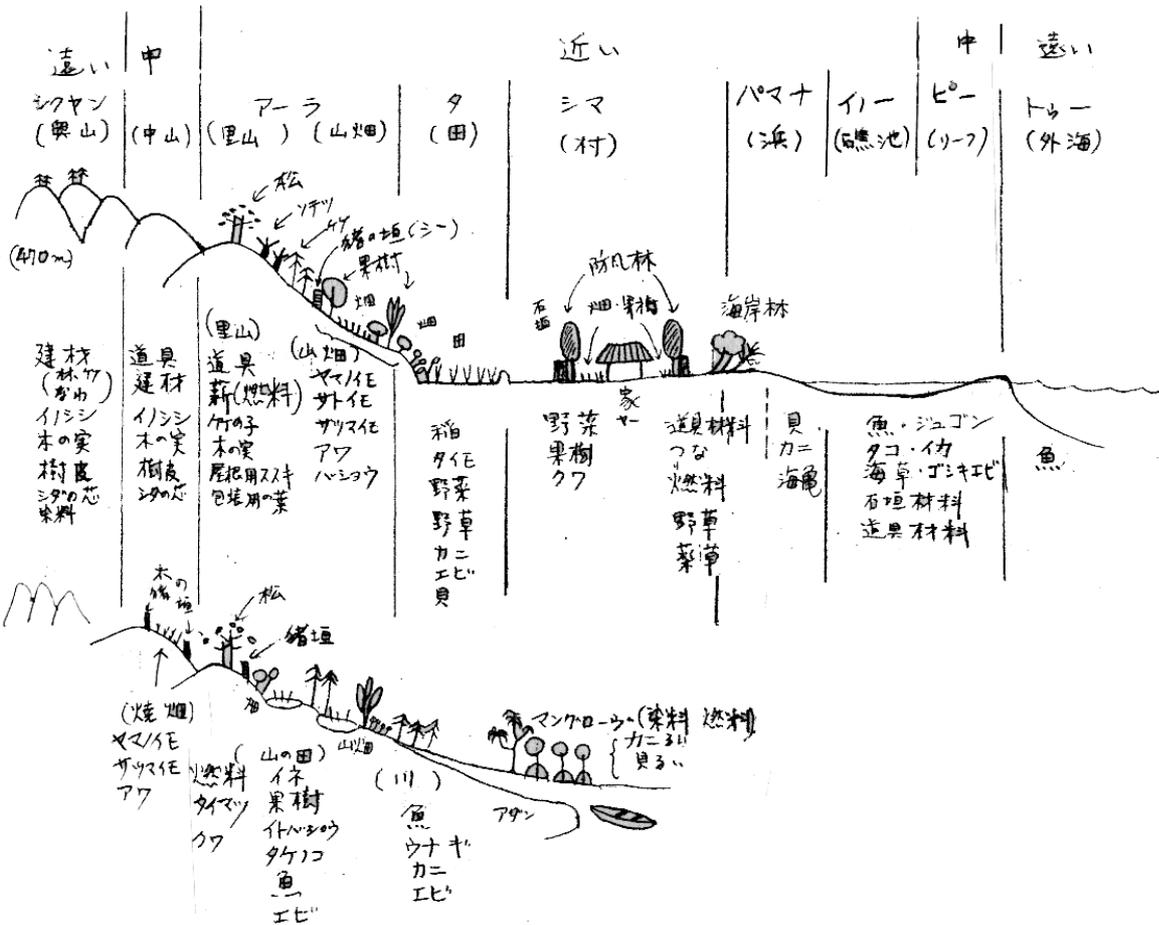


図1 西表島西部の生活空間の民俗分類とそこで入手されてきた食材など

